令和３年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　音　楽　〕　種目〔　一　般　〕

9 教科［ 音楽 ］ 種目［ 一般 ］

「令和３年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科［ 音楽 ］ 種目［ 一般 ］）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（２者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

１ 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「２ 本市の実態や生徒の状況」について

○ 興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることに課題があること

○ 生徒一人一人が音楽を知覚したことと感受したことを関連付けて、適切な言葉で表現することに課題が見られること

(2) 報告書の「３ 調査・研究の観点と視点」について

○ 観点１「基礎・基本の定着」、視点③「共通事項との関連を図るための工夫」

○ 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点⑤「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

○ 観点５「言語活動の充実」、視点⑨「表現・鑑賞領域における言語活動につなげる工夫」

２ 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点１「基礎・基本の定着」、視点③「共通事項との関連を図るための工夫」

教育出版	○ 巻頭の学習内容を示した「学びのユニット」で、教材ごとの「学びの手掛かりとなるヒント」として音楽を形づくっている要素を示している。 ○ 巻末の「楽典」に、用語や記号などを示している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、巻末の「どんな特徴があるかな？」のページを設け、音楽を形づくっている要素と感じ取ったことを関連付ける活動を例示している。
教育芸術社	○ 巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。 ○ 教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を、見開きページの左側注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。 ○ 巻末の「音楽の約束」で、用語や記号などを示している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、巻末に「音楽を形づくっている要素」のページを設け、1 年間で学習した音楽を形づくっている要素を関連教材のページを付して、振り返るよう示している。 ○ 第１学年、第２・３学年上で、「リズムゲーム」、「リズムアンサンブル」、「リズムチャレンジ」のページを設け、ゲーム感覚で、簡単なリズムの読み書きを定着させたり、リズム感覚を身に付けさせたりできる場を設定している。

(2) 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点⑤「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

教育出版	○　我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。 ○　我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。 【発問の具体例】 第２・３学年上「唱歌（しょうが）を用いて「『越天楽』を体験しよう」では、打ちものと篳篥（ひちりき）の唱歌の縦譜を掲載し、「音源の演奏を聴きながら唱歌で合わせてみよう」、「拍やリズム、篳篥の旋律の特徴を感じ取ろう」、「打ちもの（打楽器）や篳篥は、どのようにすると合うかな」と示し、「膝の打ち方」を付して、歌う活動を促している。 ○　第１学年「郷土のさまざまな民謡」、「日本とアジアの声によるさまざまな表現」、「日本とアジアをつなぐ音」、第２・３学年上「郷土の音楽や芸能」、「各地のさまざまな音楽・芸能」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。 ○　創作活動で、日本語のリズムや抑揚、擬音語、日本の音階を題材としたり、CM ソングをつくる活動を設定したりするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。 ○　第２・３学年上「私たちのくらしと音楽」では、音楽著作権について例を示したり、QA 式で場面を設定したりしている。第２・３学年下「私たちのくらしと音楽」では、アウトリーチ・教育活動・音楽療法について掲載している。また、第２・３学年下「コンピューターと音楽」で、コンピューターと音楽の関わりについて、紹介している。 ○　第２・３学年上「ポピュラー音楽図鑑」で、４ページにわたり、ポピュラー音楽の起源や種類について、それぞれの音楽の違いや代表的な演奏家や作曲家について、イラストを付して紹介している。
教育芸術社	○　我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。 ○　我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。 【発問の具体例】 第１学年「『越天楽』の唱歌（しょうが）を歌おう」では、五線譜と篳篥の縦譜（一部）を掲載し、「篳篥（ひちりき）の唱歌を歌って、旋律の特徴を感じ取りましょう」とし、「歌う時のポイント」を「篳篥の演奏を聴いて、楽器の音色や旋律の特徴を感じ取りましょう」、「唱歌の模範演奏をまねて、拍子を取りながら大きな声で歌いましょう」と示し、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付して、歌う活動を促している。 ○　第１学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第２・３学年上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第２・３学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。また、各学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。 ○　創作活動で、俳句や身近な素材、鑑賞教材のモチーフを素材とするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。 ○　第２・３学年下「ルールを守って音楽を楽しもう！」で、著作権の「音楽を利用するときに気を付けること」、「音楽が生み出される仕組み」についてイラストの会話で表現している。また、各学年の「生活や社会の中の音楽」で音や音楽の果たす役割や、音楽体験を拓くアウトリーチや、仕事と音楽について掲載している。また、第２・３学年下「社会を映し出す音楽」の中で、地域・環境・時代と音楽との関わりについて紹介している。 ○　第２・３学年下「ポピュラー音楽」で、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて２ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、更に４ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。

(3) 観点５「言語活動の充実」、視点⑨「表現・鑑賞領域における言語活動につなげる工夫」

教育出版	○ 各学年で設けている「進んで学び合おう ACTIVE！」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。 ○ 第２・３学年上、第２・３学年下の創作教材で、つくった作品をもとに、友達と交流する活動を設定している。 ○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れて創作活動を行うよう促している。 ○ 各学年の「何が同じで、何が違う？」では、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、表に整理し、話し合う活動を設定している。
教育芸術社	○ 各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。 ○ 各学年の創作教材で、つくった作品について友達と意見交流する活動を設定している。また、創作の過程で、中間発表を設定し、話合いを促している。 ○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れる部分を「ワークシート」と示し、創作活動と工夫したことをまとめるよう促している。 ○ 第２・３学年下の巻末で、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲の良さや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。

３ 意見

(1) 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

（理由）

○ 視点③の工夫として、巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。

○ 視点③の工夫として、教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を、見開きページの左側注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。

○ 視点⑤の工夫として、我が国や郷土の伝統音楽について、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。「越天楽」の唱歌を歌う場面では、五線譜と篳篥の縦譜（一部）を掲載し、「歌う時のポイント」、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付して、歌う活動を促している。

○ 視点⑤の工夫として、各学年の裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。

○ 視点⑤の工夫として、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて、２ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で海外編と日本編に分けて、更に４ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。

○　視点⑨の工夫として、各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。

○　視点⑨の工夫として、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲の良さや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。

以上のとおり、教育芸術社の教科書は、１(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科　一般で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2)　教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

（理由）

○　視点③の工夫として、巻頭の学習内容を示した「学びのユニット」で、教材ごとの「学びの手掛かりとなるヒント」として音楽を形づくっている要素を示している。

○　視点⑤の工夫として、我が国や郷土の伝統音楽については、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。「越天楽」の唱歌を歌う場面では、打ちものと篳篥の唱歌の縦譜を掲載し、「膝の打ち方」を付して、歌う活動を促している。

○　視点⑤の工夫として、「ポピュラー音楽図鑑」で、ポピュラー音楽の起源や種類について、それぞれの音楽の違いや代表的な演奏家や作曲家について、イラストを付して紹介している。

○　視点⑨の工夫として、各学年で設けている「進んで学び合おう　ACTIVE！」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。

○　視点⑨の工夫として、各学年の「何が同じで、何が違う？」では、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、表に整理し、話し合う活動を設定している。

以上のとおり、教育出版の教科書は、１(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科　一般で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和３年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　音　楽　〕　種目〔　器楽合奏　〕

10 教科［ 音楽 ］ 種目［ 器楽合奏 ］

「令和３年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科［ 音楽 ］ 種目［ 器楽合奏 ］）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（２者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

１ 審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「２ 本市の実態や生徒の状況」について

○ 興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることに課題があること

○ 生徒一人一人が音楽を知覚したことと感受したことを関連付けて、適切な言葉で表現することに課題が見られること

(2) 報告書の「３ 調査・研究の観点と視点」について

○ 観点１「基礎・基本の定着」、視点①「器楽の基礎・基本を図るための工夫」

○ 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

○ 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

○ 観点５「言語活動の充実」、視点⑧「器楽領域における言語活動につなげる工夫」

２ 各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点１「基礎・基本の定着」、視点①「器楽の基礎・基本を図るための工夫」

教育出版	○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて解説している。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文で示している。 ○ ギターの奏法として、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。 ○ ギターのタブ譜について、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。 ○ 創作活動として、お囃子を題材とした活動を設定している。 ○ 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。
教育芸術社	○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八・打楽器）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて解説している。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文や Q&A 方式で示している。 ○ ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。 ○ ギターのタブ譜について、「バンドのスコア（楽譜）を見てみよう！」で、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。 ○ 創作活動として、箏を用いた活動を設定している。 ○ 巻末に、「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。

(2) 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

教育出版	○ 巻頭の「さまざまな音色や響きと奏法」で、様々な楽器の演奏時の写真を掲載している。 ○ 著名な演奏者の言葉を、巻頭の「With My Heart」、各楽器のページで掲載している。 ○ 「目次」で、各楽器を色分けして示し、構成を「演奏の仕方を身に付けよう」、「合わせて演奏しよう」に分けて示している。 ○ 各楽器のページでは、見開きごとに目標を示し、教材ごとに学びのポイントを示している。 ○ 巻末の「Let’s Play!」、「Let’s Try!」で練習曲や合奏曲を掲載し、「名曲旋律集」では、表現・鑑賞領域で扱う楽曲の旋律を掲載している。 ○ 創作活動「音のスケッチ」で、活動1、2、3の順で一連の学習過程を示している。 ○ 各楽器の種類や特徴について写真や言葉で示している。
教育芸術社	○ 巻末の「楽器の図鑑」で、様々な楽器を整理し、写真を掲載している。 ○ 著名な演奏者の言葉を、巻頭４ページ、各楽器のページで掲載している。 ○ 「目次」で、各楽器を色分けして示し、構成をアンサンブルのコーナーと各楽器のコーナーに分けて示している。 ○ 「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。 ○ 各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。また、「アンサンブルセミナー」のページでは、教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素、学習のポイントを示している。 ○ 巻末の「アンサンブル」、「楽器でMelody」で練習曲や合奏曲を掲載している。 ○ 創作活動「My Melody」で、①、②、③の順で一連の学習過程を示している。 ○ 各楽器の種類や特徴について写真や言葉で示し、「日本音楽の楽器編成」では、和楽器と我が国の音楽の関係を表で示している。

(3) 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点④「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫」

教育出版	○ 各楽器の始めのページで、楽器の起源や発展について紹介している。 ○ 和楽器の学習において、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介しているとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。
教育芸術社	○ 各楽器の紹介ページで、楽器の起源や発展について紹介している。 ○ 和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。その際、練習の手順や練習のポイントを文で示している。 ○ 巻末の「楽しもう！和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。

(4) 観点５「言語活動の充実」、視点⑧「器楽領域における言語活動につなげる工夫」

教育出版	○ 「何が同じで何が違う？」で、楽器の共通点・相違点について表にまとめ、交流し友達に紹介する活動を促している。また、発展として楽器の背景となる文化や伝統を調べ、記入する欄を設けている。
教育芸術社	○ 「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

３ 意見

(1) 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

○ 視点①の工夫として、リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文やQ&A方式で示している。

○ 視点③の工夫として、巻末の「楽器の図鑑」で、様々な楽器を整理し、写真を掲載している。

○ 視点③の工夫として、「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。

○ 視点③の工夫として、各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。また、「アンサンブルセミナー」のページでは、教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素を示すとともに、学習のポイントが示されている。

○ 視点④の工夫として、和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。その際、練習の手順や練習のポイントを文で示している。

○　視点④の工夫として、巻末の「楽しもう！和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。
○　視点⑧の工夫として、「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

以上のとおり、教育芸術社の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科　器楽合奏で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2)　教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

（理由）

○　視点①の工夫として、リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを文で示している。
○　視点③の工夫として、巻頭の「さまざまな音色や響きと奏法」で、様々な楽器の演奏時の写真を掲載している。
○　視点③の工夫として、各楽器のページでは、見開きごとに目標を示し、教材ごとに学びのポイントを示している。
○　視点④の工夫として、和楽器の学習において、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、縦譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介するとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。
○　視点⑧の工夫として、「何が同じで何が違う？」で、楽器の共通点・相違点について表にまとめ、交流し友達に紹介する活動を促している。また、発展として楽器の背景となる文化や伝統を調べ、記入する欄を設けている。

以上のとおり、教育出版の教科書は、1(1)に記した、本市の生徒の「興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取ったり、理解したりすることには課題がある」、「生徒一人一人が音楽を知覚したことや、感受したことを関連付けて適切な言葉で表現することに課題が見られる」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、音楽科　器楽合奏で使用する教科書としてふさわしいと考える。

令和３年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科　〔　美　術　〕　種目〔　美　術　〕

別添１１－１

11 教科［　美術　］　種目［　美術　］

「令和３年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書（教科［　美術　］　種目［　美術　］）」（以下、「報告書」という。）並びに調査員代表からの報告をもとに、各観点及び視点に沿って、全ての発行者（３者）の教科書について、詳細に検討・審議した結果、以下のとおり答申します。

１　審議の際に、特に重点を置いて検討した事項

(1) 報告書の「２　本市の実態や生徒の状況」について

○　主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題があること

○　表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題があること

(2) 報告書の「３　調査・研究の観点と視点」について

○　観点１「基礎・基本の定着」、視点①「造形的な視点を豊かにするために必要な知識」

○　観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

○　観点３「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「発想し構想することに関する内容」

○　観点５「言語活動の充実」、視点⑧「意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例」

２　各発行者の特徴（抜粋）

(1) 観点１「基礎基本の定着」、視点①「造形的な視点を豊かにするために必要な知識」

開隆堂出版	○　巻末に「学びの資料」として、第１学年では16ページ、第２・３学年では17ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。 ○　題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」をマークとともに示している。 ○　題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。
光村図書出版	○　巻末に「学習を支えるための資料」として、第１学年では24ページ、第２・３学年では28ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。それぞれの内容を詳しく扱ったり、材料の中でも身近な紙について取り上げたりすることで、内容が充実している。 ○　題材ごとに「目標」が示されており、知識や技能に関する内容を含んだ「表現」と「鑑賞」の２つに分けて示している。 ○　題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。
日本文教出版	○　巻末に「学びをささえる資料」として、第１学年では18ページ、第２・３学年上では16ページ、第２・３学年下では10ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。 ○　題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」を「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」としてマークとともに示している。 ○　掲載している資料に応じて、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

(2) 観点２「主体的に学習に取り組む工夫」、視点③「興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫」

開隆堂出版	○　第１学年「学びの地図」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、３ページにわたって示している。 ○　各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱で示している。 ○　４ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第１学年　　：「樹花鳥獣図屏風」 第２・３学年：「紅梅図襖」、「誕生」、「ボウルを持つデーモン」 ○　作品の一部を原寸大で掲載している。 第１学年　　：「樹花鳥獣図屏風」 第２・３学年：「自画像」（ゴッホ）、「記憶の固執」 ○　第２・３学年の「ポスターで伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 2019」を掲載している。
光村図書出版	○　第１学年「美術って何だろう？」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、４ページにわたって示している。 ○　各題材では、表現と鑑賞の２つの内容に分けて学習目標を示している。 ○　各題材では、鑑賞→表現→鑑賞の流れで、表現と鑑賞を相互に関連付けて学習を進めるように構成しており、マークで示している。 ○　４ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第１学年　　：「風神・雷神像」、「風神雷神図屏風」 第２・３学年：「『ゲルニカ』を見る少年」、「ゲルニカ」 ○　作品の一部を原寸大で掲載している。 第２・３学年：「阿修羅像」、「富嶽三十六景　神奈川沖浪裏」、 「鳥獣人物戯画　甲巻」 ○　第２・３学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の３作品を掲載している。 ○　鑑賞の版画や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ２作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。 第１学年　　：「星空をペガサスと牛が飛んでいく」（生徒作品）、 「瀬戸内海集　帆船（朝）」 第２・３学年：「鳥獣人物戯画」、「火の鳥」 ○　第２・３学年、鑑賞の「最後の晩餐」では、トレーシングペーパーを挟み、かき込みができるようになっている。
日本文教出版	○　第１学年「中学校美術の世界へようこそ」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、２ページにわたって示している。 ○　各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱で示している。 ○　４ページにわたって美術作品を大きく掲載している。 第１学年　　：「風神雷神図屏風」、「燕子花図」 第２・３学年上：「三世大谷鬼次の奴江戸兵衛」、「当時三美人」、 「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」 第２・３学年下：「サグラダ・ファミリア聖堂」、「ゲルニカ」 ○　作品の一部を原寸大で掲載している。 第１学年　　：「遮光器土偶」 第２・３学年上：「星月夜」、「印象－日の出」、「富嶽三十六景　神奈川沖浪裏」 第２・３学年下：「誕生」、「火焔型土器」 ○　第２・３学年上の「その一枚が人を動かす」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の３作品を掲載している。

(3) 観点３「内容の構成・配列・分量」、視点⑥「発想し構想することに関する内容」

開隆堂出版	○　発想や構想の方法などを示すコーナーを設け、第１学年では４題材、第２・３学年では７題材で、発想や構想を助ける内容を掲載している。 ○　生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は16題材で紹介されている。 （例）第１学年　エドガー・ドガなど ○　生徒のアイデアスケッチやレポートが３題材で紹介されている。 （例）第２・３学年　「ポスターで伝える『ゲリラ豪雨展』」など ○　第２・３学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。
光村図書出版	○　「みんなの工夫」というコーナーを設け、第１学年では４題材、第２・３学年では４題材で、中学生の制作や発想の様子を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。 ○　生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は５題材で紹介されている。 （例）第１学年　須田悦弘など ○　生徒のアイデアスケッチやレポートが13題材で紹介されている。 （例）第１学年　「印象に残るシンボルマーク『I’m fine』」など ○　第２・３学年では、思考ツール「マッピング」、「９マスの図」、「ベン図」を紹介している。 ○　第２・３学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。
日本文教出版	○　発想や構想の方法などを示すコーナーを設け、第１学年では３題材、第２・３学年上では２題材、第２・３学年下では２題材で、発想や構想を助ける内容を掲載している。 ○　生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は10題材で紹介されている。 （例）第２・３学年下　　池田学など ○　生徒のアイデアスケッチやレポートが14題材で紹介されている。 （例）第２・３学年下　「イメージを追い求めて『人生』」など ○　第１学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。 ○　第１学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想・構想の手立て」を設けている。

(4) 観点５「言語活動の充実」、視点⑧「意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例」

開隆堂出版	○　発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。 【発想・構想の場面】 （例）第１学年「形と色彩のメッセージ」など （例）第２・３学年「ピクトグラムとサイン計画」など 【鑑賞の場面】 （例）第１学年「機能と美しさの調和」など （例）第２・３学年「美術で世界と向き合う」など ○　友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。 第１学年　　７箇所 第２・３学年　２箇所 ○　生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。 第１学年　　２箇所 第２・３学年　３箇所
光村図書出版	○　発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。 【発想・構想の場面】 （例）第１学年「生活をいろどる文様」など （例）第２・３学年「あれ？どうなっているの」など 【鑑賞の場面】 （例）第１学年「世界の仮面と出会う」など （例）第２・３学年「ゲルニカ、明日への願い」など ○　友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。 第１学年　　７箇所 第２・３学年　６箇所 ○　生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。 第１学年　　６箇所 第２・３学年　18箇所 ○　第２・３学年「学習を支えるための資料」に、特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。

日本文教出版	○　発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。 【発想・構想の場面】 （例）第１学年「広がる模様の世界」など （例）第２・３学年下「魅力を伝えるパッケージ」など 【鑑賞の場面】 （例）第１学年「自然の美しさから生まれた」など （例）第２・３学年下「あの日を忘れない」など ○　友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真で示している。 第１学年　　７箇所 第２・３学年上　４箇所 第２・３学年下　11 箇所 ○　生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。 第１学年　　５箇所 第２・３学年上　３箇所 第２・３学年下　４箇所

３　意見

(1)　光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

（理由）

○　視点①の工夫として、巻末に「学習を支えるための資料」として、第１学年では 24 ページ、第２・３学年では 28 ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。

○　視点③の工夫として、第２・３学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の３作品を掲載している。

○　視点③の工夫として、鑑賞の版画や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ２作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。

○　視点③の工夫として、第２・３学年、鑑賞の「最後の晩餐」では、トレーシングペーパーを挟み、かき込みができるようになっている。

○　視点⑥の工夫として、「みんなの工夫」というコーナーを設け、第１学年では４題材、第２・３学年では４題材で、中学生の制作や発想の様子を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。

○　視点⑥の工夫として、生徒のアイデアスケッチやレポートが 13 題材で紹介されている。

○　視点⑥の工夫として、第２・３学年では発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。

○　視点⑧の工夫として、生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を第１学年で６箇所、第２・３学年では18箇所で示している。
○　視点⑧の工夫として、第２・３学年「学習を支えるための資料」に特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。

以上のとおり、光村図書出版の教科書は、１(1)に記した、本市の生徒の「主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題がある」、「表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、美術科で使用する教科書としてよりふさわしいと考える。

(2)　日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

（理由）

○　視点①の工夫として、巻末に「学びをささえる資料」として、第１学年では18ページ、第２・３学年上では16ページ、第２・３学年下では10ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。
○　視点③の工夫として、第２・３学年上の「その一枚が人を動かす」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983、1984、2015」の３作品を掲載している。
○　視点⑥の工夫として、生徒のアイデアスケッチやレポートが14題材で紹介されている。
○　視点⑥の工夫として、第１学年では発想や構想を助ける特集ページ「発想・構想の手立て」を設けている。
○　視点⑧の工夫として、生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を第１学年で５箇所、第２・３学年上で３箇所、第２・３学年下では４箇所で示している。

以上のとおり、日本文教出版の教科書は、１(1)に記した、本市の生徒の「主題に対して豊かに発想し構想を練る力に課題がある」、「表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある」という状況に対し、その課題等の解決に向けた教科指導を行っていく上で、美術科で使用する教科書としてふさわしいと考える。